

多面的機能支払制度の取組状況等 について

令和4年5月20日

1. 農地維持支払の取組状況

富山県目標値

○農地維持支払活動への取組

令和8年度に、農業振興地域内農業集落数の8割の1,600集落が取組むことを目標とする。（富山県農業・農村振興計画にも記載）

富山県の令和3年度の農地維持支払取組状況（推定値）

○取組集落 : 1,440集落（R2年度1,428集落）

○取組面積 : 41,778ha、取組率75%
（R2年度 41,433ha、取組率74%）

R2全国平均55%、本県の取組率は全国第3位

◎全国の取組状況

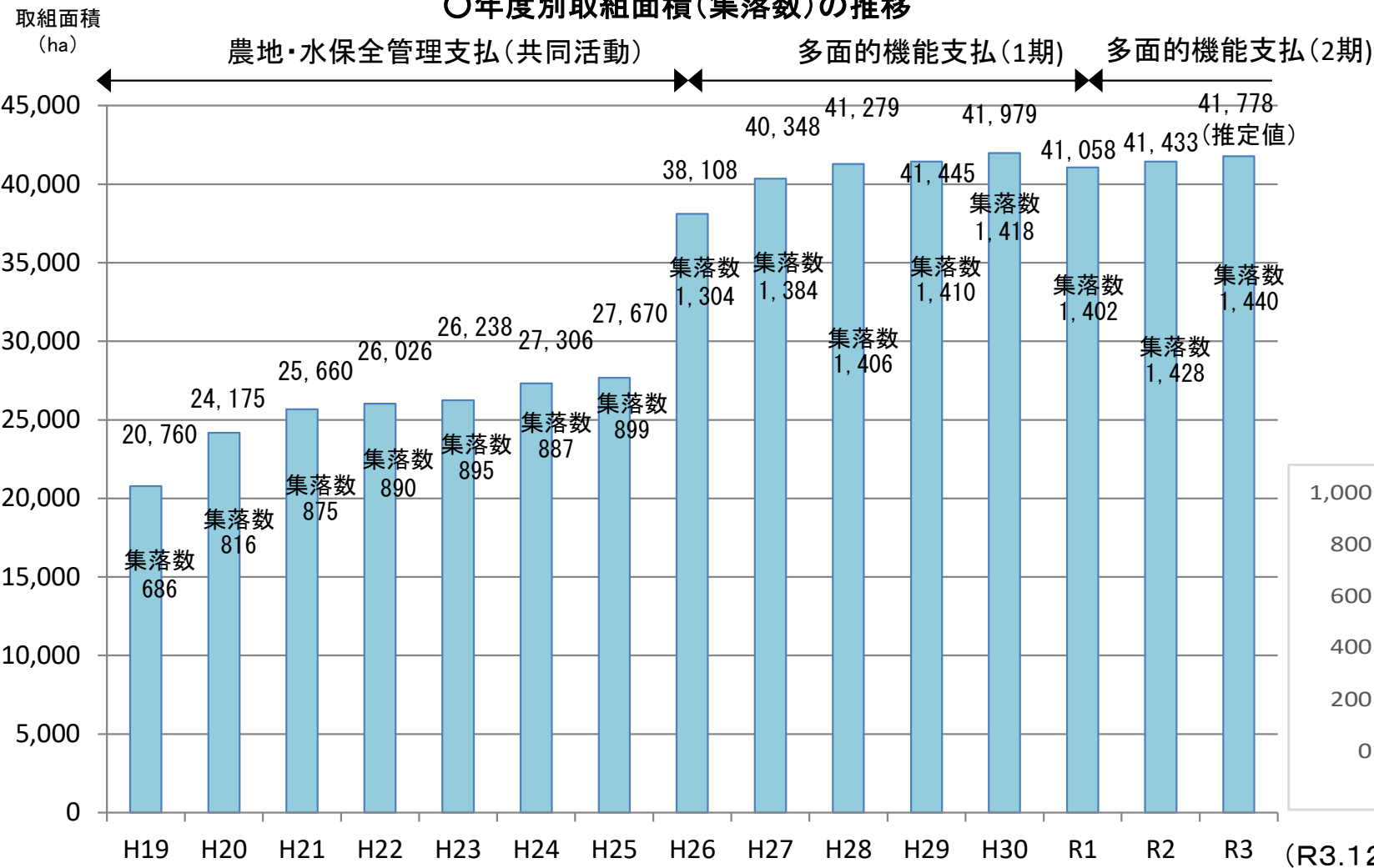
順位	都道府県	取組率
1	兵庫県	82%
2	福井県	82%
3	富山県	74%
4	新潟県	74%
5	滋賀県	73%
6	山形県	70%
7	佐賀県	69%
8	北海道	67%
9	石川県	67%
10	秋田県	66%

2. 農地維持支払の県内の取組状況の推移

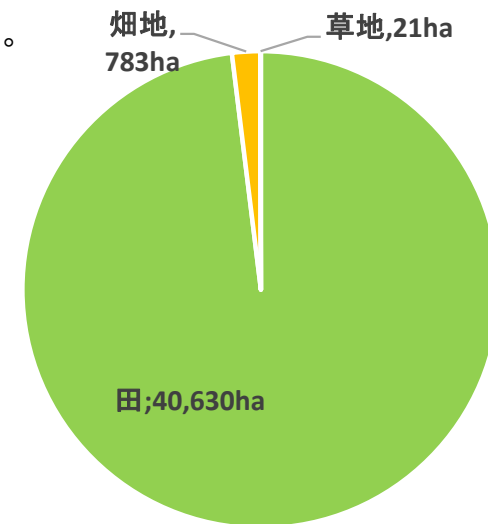
- ・令和3年度の取組面積は、前年度比で約0.6%増加する見込み。
- ・地目別に見ると取組面積の98%を田が占めている。
- ・農振農用地以外の農地における取組※は増加傾向。

※平成26年度より、農振農用地と一体的に取り組み必要があると認められる市街化区域内の農地等も交付対象となった。

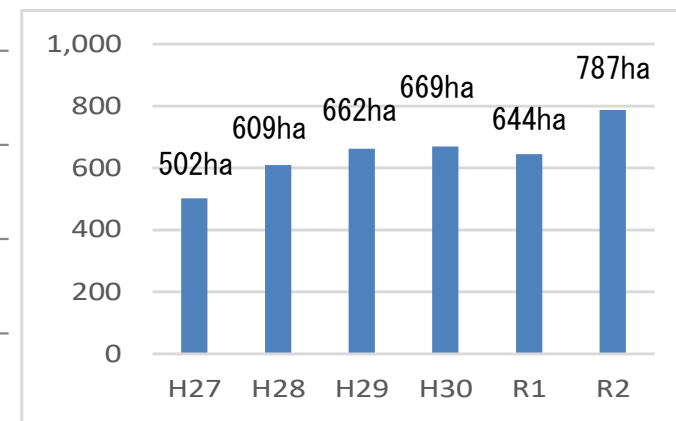
○年度別取組面積(集落数)の推移



地目別取組状況 (R02)



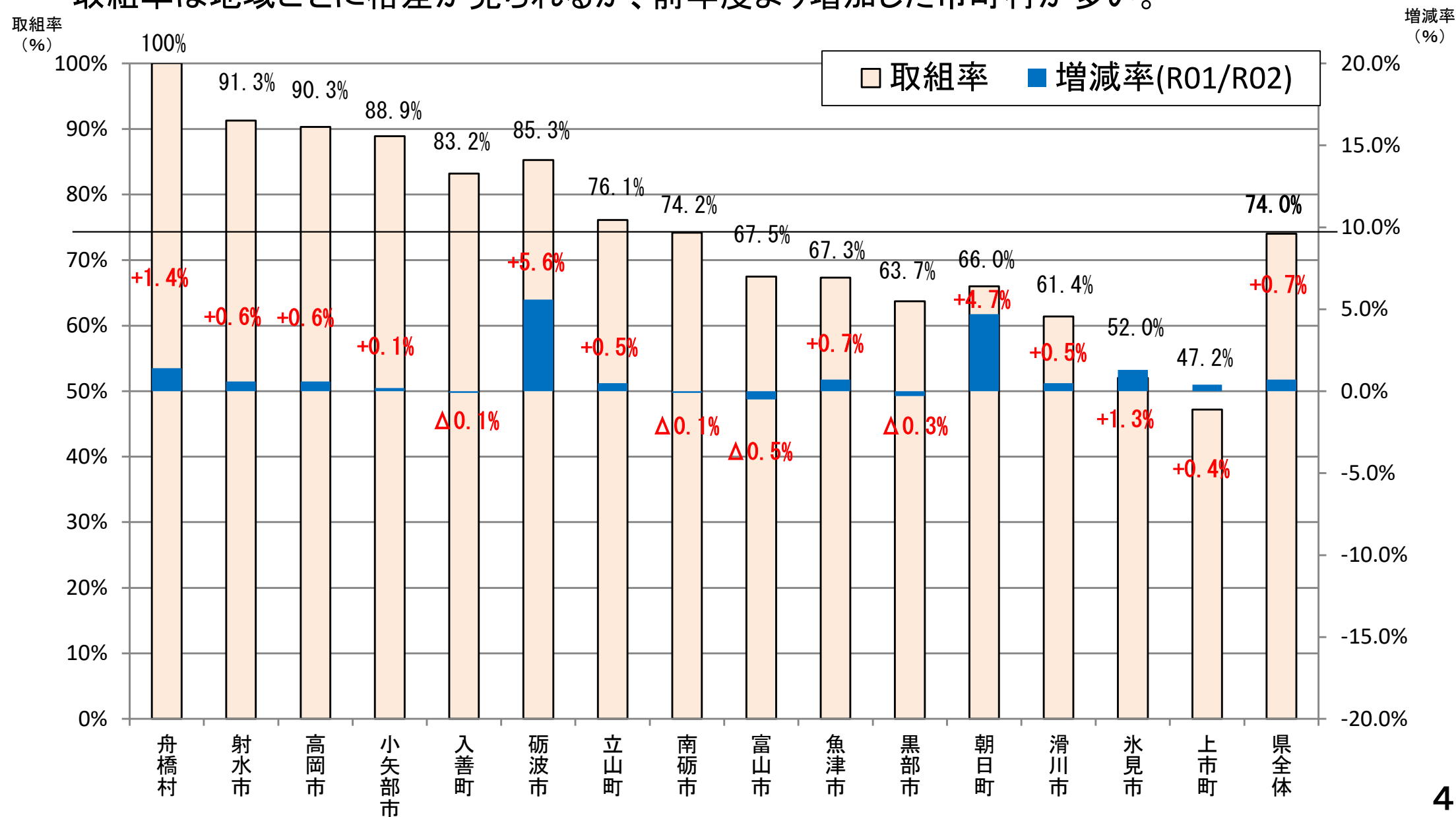
農振農用地以外での取組



(R3.12月末時点)

3. 市町村別の農地維持支払の取組状況

・取組率は地域ごとに格差が見られるが、前年度より増加した市町村が多い。



4. その他の取組状況（R02実績）

○富山県では、農地維持支払1,010組織、資源向上支払（共同活動）869組織、資源向上支払（長寿命化）272組織が取り組んでいる。

項目	富山県	北陸管内	全国
資源向上支払（共同活動）の取組率	67%	70%	49%
資源向上支払（長寿命化）の取組率	22%	37%	18%
活動組織数	1,010	2,932	26,233
広域活動組織数（活動組織に占める割合）	8(0.8%)	215(7.3%)	991(3.8%)

○資源向上支払（共同活動）農村環境保全活動の人気テーマ・活動

順位	テーマ	組織数	順位	活動内容(テーマ)	組織数
1	景観形成・生活環境保全	839	1	施設等の定期的な巡回点検・清掃(景観形成・生活環境保全)	517
2	生態系保全	103	2	景観形成のための施設への植栽等(景観形成・生活環境保全)	492
3	水質保全	59	3	その他(景観形成・生活環境保全)	254
4	水田貯留・地下水かん養	18	4	生物の生息状況の把握(生態系保全)	72
5	資源循環	7	5	その他(水質保全)	31
			6	その他(生態系保全)	24

5. 令和4年度の取組方針

令和3年度は前年度よりも取組面積が増加したものの、後継者不足や参加者の高齢化等により取り組みを止める組織もあり、取組面積が維持・増加できるよう推進活動を展開する。

○市町村と連携した推進活動の実施

①活動組織の広域化

- ・ 広域活動組織設立に向けた説明会の実施
- ・ 関係機関との調整 等

②既存活動組織への支援

- ・ 事務支援システム導入推進
- ・ 事務委託の体制整備
- ・ 活動期間終了を迎える活動組織への働きかけ
- ・ 企業、学校等と連携した人的支援の検討 等

③未取組集落の掘り起こし

- ・ 未取組集落への説明会の実施
- ・ アンケート調査 等

○その他、活動組織リーダーを育成するための研修会の開催、活動事例の収集・発信を実施。

<研修会（県協議会主催）>



<技術研修会（県協議会主催）>



<参考> 取組事例①

「塚越農地・水・環境保全会」 (立山町) R3年度「元気とやま」むらづくり推進大会で知事賞受賞

○取組面積: 8.4ha ○構成員: 農業者、営農組合、自治会、女性会等

- 小規模な集落であるものの、農家・非農家問わず住民が一丸となり草刈り等に取り組んでいる。
- 水門などの付帯施設の点検・整備においても、地域一体となり取り組んでいる。
- 広報誌である「保全会通信」を年2回・10年以上にわたり発行し、地域住民への活動PRに努めている。



水路畦畔等の草刈り作業



水門の保守・点検管理の様子



広報誌「保全会通信」

<参考> 取組事例②

「江波地区環境保全推進委員会」(砺波市)

R3年度「元気とやま」むらづくり推進大会で知事賞受賞

○取組面積:114.0ha ○構成員:農業者、営農組合、自治会、女性会等

○地域の景観形成を整える活動として、農道路肩に水仙の植栽を行うほか、女性グループによる地域の緑化活動に取り組んでいる。

○下流域の洪水被害を軽減させる対策として、排水口に調整板を設置するほか、畦の再構築により水田の持つ貯留機能の向上を図っている(田んぼダムの実施)。



植栽活動の様子



調整板を設置した様子(田んぼダム)